一般助成　災害復興コミュニティ支援（西日本豪雨）

「平成30年7月豪雨被災地支援『仮設住宅×緑のカーテン』プロジェクトin愛媛」事業

自然災害や地球温暖化によって心身に起こる問題を緑のカーテンのある暮らしによって解決を目指す

近年、甚大な被害をもたらす自然災害が続いている。そのたびに尊い命が奪われ、多くの被災者が避難生活を余儀なくされている。夏場の酷暑や生活不活発病の発生などが心配される仮設住宅に暮らす人々に癒しや健康的な習慣をもたらすため、窓際に緑のカーテンを設置するプロジェクトに取り組んでいる団体がある。

仮設住宅へ緑のカーテンを設置

避難生活を余儀なくされている被災住民につる性植物の緑のカーテンを届ける

NPO法人「緑のカーテン応援団」は、2003年から小学校の総合的な学習の時間を舞台に、「自分たちの学校は、自分たちで涼しくしよう!」というテーマのもと、活動をスタートし、学校でも、家庭でも、地域でも取り組める地球温暖化対策として、日本全国へ緑のカーテンを広める活動に取り組んでいる。

東日本大震災直後には、仮設住宅に避難している人々が少しでも前向きな気持ちになれるよう、被災者支援として「仮設住宅×緑のカーテンプロジェクト」をスタートし、2016年までに20,000戸以上の仮設住宅に緑のカーテンを届けたほか、2017年には熊本地震被災地の応急仮設住宅、2018年には九州北部豪雨被災地の福岡県朝倉市の応急仮設住宅へ緑のカーテンを届ける活動を行った。

つる性植物でつくる緑のカーテンは、断熱材の薄い仮設住宅で日差しの強い夏の暑さを緩和する効果があるほか、植物の世話（栽培）をする必要があるため、戸外に出る機会が生まれ、室内にこもりがちになる入居者にとっては、いわゆる「生活不活発病」の予防策としての効果が見込まれるという。また、毎日の水やりなど、緑のカーテンを育てながら隣近所で助け合う関係性ができたり、花や緑を楽しむことで気持ちが癒され、実を収穫して料理するなどの活動を通じ、新たな交流やコミュニケーションが生まれたりするきっかけになるほか、住棟間隔が狭く、他者の視線を妨げる木々や設計配慮に乏しくならざるを得ない仮設住宅において、緑のカーテンが夏の窓辺のプライバシーを守る効果も発揮する。このように決して快適とは言えない仮設住宅で暮らす人々の心身に良い効果をもたらすことを、同法人ではこれまでの経験から学んだという。

愛媛県内3市の仮設住宅で緑のカーテンを設置する作業を住民やボランティアと一緒に

同法人ではAJOSCの助成を受け、一昨年7月に西日本を中心に甚大な被害を出した台風7号及び梅雨前線などの影響による集中豪雨（「平成30年7月豪雨」、別称「西日本豪雨」）の被災地の一つである愛媛県で、「仮設住宅×緑のカーテンプロジェクト」を実施した。

プロジェクトが実施されたのは、愛媛県西予市の野村運動公園（つつじ団地）仮設住宅及び隣接保育園、明間仮設住宅、同県宇和島市の吉田西小路仮設住宅、同県大洲市の徳森公園仮設住宅、大駄馬仮設住宅で、昨年5月18日～19日（追加日7月2日）にかけて、合計75ヵ所で緑のカーテンが設置された。当日、緑のカーテンづくりに必要な部材一式を揃え、同法人スタッフと協力ボランティアが現地に赴き、入居者の方々と一緒に設置作業を行ったが、「仮設住宅の方々が我々の到着を楽しみに待っていてくださり、別れ際にも見えなくなるまで手を振って見送ってくださり、感謝と安堵の気持ちで心が温かくなりました。現地の市役所や社会福祉協議会の方々が事前に橋渡しをしてくださり、当日も立ち会ってくださったことにも感謝しています」と、同法人の事務局では話す。

設置にあたっては、一昨年10月末に被災地の状況を視察し、事前に入居者への希望調査を行い、希望する世帯に実施したが、設置後に設置済みの緑のカーテンを見た未設置の入居者から希望があり、急遽、宇和島市で20ヵ所追加したという。

仮設住宅の入居者に配布した冊子「緑のカーテンのつくりかた」

助成団体:特定非営利活動法人　緑のカーテン応援団　https://midorinoka-ten.com

助成金があることで自主的な活動がさらに大きくなりました

このプロジェクトの実施を決めるにあたり、助成金を支援してくださることになったことで、大変安心できました。大災害はいつ、どこで発生するかわかりませんが、私たちの主なメンバーは都内近郊在住者が多く、事務所も板橋区にあり、地方に行く場合には経費がかかります。ほぼ自費で活動していますが、この度、援助をいただけたことに心より感謝いたします。

特定非営利活動法人　緑のカーテン応援団
事務局　太田 貴信さん